

1. フィールドワークショップの実施

- 目的**
- ① 湿原に対する新たな視点・気づきの共有
 - ② ワンダグリンド・プロジェクト参加団体同士のヨコの連携
 - ③ 自然再生情報の共有
 - ④ ワンダグリンド・プロジェクト応募の魅力のひとつとして

概要

ワンダグリンド・プロジェクト2008応募者、再生普及行動計画WGメンバー及び再生普及小委員会委員を対象として研修会を実施。その中で得られた新しい気づきを、参加者が各々の活動の中で活かしていくことを期待する。

2. ワンダグリンド・プロジェクト推進サポーターの募集

- 目的**
- ① まだワンダグリンド・プロジェクトに参加してもらっていない分野等への周知と呼びかけ(ワンダグリンド・プロジェクトの周知強化)
 - ② 自然再生の一層の普及

概要

各種施設や店舗などにおいて、ワンダグリンド・プロジェクトをはじめ自然再生の各種資料配布やポスター掲示など協力してもらいたい事柄等を一覧にしたチラシを作成。チラシに申込み欄を設け、協力してくれる事項をWG事務局へ申し込んでもらう。チラシの配布については、各種イベント時、各種施設等への配布など、機会あるごとに行う(皆さんのご協力をお願いします)。サポーター登録してくれた方は、ホームページと報告書で名称を紹介する。

3. 情報発信の拡充

- 目的**
- ワンダグリンド・プロジェクトをはじめ自然再生の一層の普及

概要

- ワンダグリンド・プロジェクトに関する広報キャンペーンを実施。
例)毎週末のイベント情報を通常より詳細に紹介/メールニュース登録者増に力を入れる/サポーター募集の広報に力を入れるなど
- メールニュース「ワンダグリンド☆ニュース」とFMくしろ「ゆうゆう釧路湿原塾」の中で、自然再生に関わる多様な人の話題を発信する(例:各小委員会委員長、ワンダグリンド・プロジェクト募者など)。

その他について

このようなことが話し合われました **委員長**

- 「くしろエコフェア2008」のご案内と、公演とパネルディスカッションのご案内と、それから国際シンポジウム(持続可能な未来を作る環境教育)というテーマで配布させていただいた。関心のある方は是非参加していただきたい。

資料の公開方法

委員会で使用した資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。

<http://www.kushiro-wetland.jp/>

ご意見募集

釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAX・Eメールにて事務局まで御連絡ください。

第11回 再生普及小委員会 [出席者名簿(敬称略、五十音順)]

●個人(3名)

- 清水 信彦
高橋 忠一[北海道教育大学釧路校 准教授]
西村 旬司[釧路湿原川レンジャー]

●団体(10名)

- 阿寒国際ツルセンター(グルス)[主任 太田 幸]
釧路国際ウェットランドセンター[菊地 義勝]
釧路湿原国立公園連絡協議会
[事務局次長 菊地 義勝]
釧路シャケの会[事務局長 小杉 和寛]
こどもエコクラくしろ[サポーター 近藤 一燈美]
財団法人日本野鳥の会
鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ
[チーフレンジャー 有田 茂満]
財団法人北海道環境財団[久保田 学]
特定非営利活動法人くしろ・わっと[成ヶ澤 茂]
北海道標茶高等学校[石井 亮]
山崎山林森林セラピー推進会[山中 慎一朗]

●オブザーバー(1団体)

- 釧路商工会議所[加藤 裕美]

●関係行政機関(5機関)

- 環境省 釧路自然環境事務所[所長 北沢 克巳]
林野庁 北海道森林管理局
釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
[自然再生指導官 白藤 未人]
北海道 釧路支庁
[地域振興部環境生活課自然環境係長 齋藤 健一]
北海道教育庁 釧路教育局
[社会教育指導班 主査 柴山 敬]
釧路市[環境政策課自然保護担当湿地保全主幹 菊地 義勝]

釧路湿原 自然再生協議会

再生普及小委員会

No. **11**

ニュースレター

編集・発行:釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

発行日:平成20年6月18日



釧路湿原

2008年(平成20年)5月19日(月) 「第11回 再生普及小委員会」が 釧路地方合同庁舎で開催されました。

開催概要

「第11回再生普及小委員会」が平成20年5月19日(月)、釧路地方合同庁舎5階の共用第一会議室で開催されました。小委員会には19名(個人3名、団体10名、オブザーバー1団体、関係行政機関5機関)が出席しました。会議ではワンダグリンド・プロジェクト2007の活動報告やワンダグリンド・プロジェクト2008の応募状況、行動計画ワーキンググループの2008年度の新たな取組みについて報告、意見交換が行われました。また、環境教育ワーキンググループの経過報告や今後の予定についても活発な質疑応答が行われました。



釧路湿原自然再生協議会 運営事務局

TEL(0154)23-1353

FAX(0154)24-6839

[E-mail] info@kushiro-wetland.jp

再生普及小委員会が、実施していること。これから実施したいこと。

行動計画ワーキンググループの経過報告について

① ワンダグリンド・プロジェクト2007の活動報告と報告書について事務局より説明があり、その後、出席した委員の間で意見交換が行われました。



応募団体の活動は報告書に掲載して多くの方に配布します。



ホームページで応募団体の紹介、イベント情報などを掲載します。



イベント時にワンダグリンド・プロジェクトのブースを設け、応募団体の活動紹介(パネル)や応募団体の方が体験ブースを設けることができます。

このようなことが話し合われました

●委員長 ●委員 ●事務局

- 「取り組みの狙い」のところの表示を親切に記載していると思う。
- 知名度アンケートのサンプル数を表してくれた面は大賛成。
- 昨年2006年の時にその前のときから比べて、今回更に読みやすく、見やすくするように工夫をしていると感じる。
- 2007年度の報告書の中で、1つの取り組みで2つの報告書になっていた、時間を変えて何回か行われた1つの取り組みが1つの報告書になっていたという形が見られる。
- 応募のときに、内容が全く違うジャンルを1つの取り組みとしている場合でも、読み手が新たな気分で読めるようなバラエティーのある活動であれば、複数ページに分けて報告書を作成するというのもよいと思う。
- 私どもの取り組みでは、フリークライミ

ングみたいなイベントから、森林セラピーもあれば、カヌー体験なんかも今年やろうと思っている。報告書の作成としてアトラクション別のような提出は可能であると思う。

- プロジェクト参加者として報告書を作成することに関しては、もっともっと本当はやりたいことはある。阿寒なので人が集まらないというのが私たちの悩み。本人の了承を得ることが出来るならば、顔写真付きで「何々に参加し、どういう思いをもったか」というのを載せることによって、より効果が出てくるのではないかなと思う。ワンダグリンド自体を知っている人と知らない人の格差というのがまだ大きい気がする。もう少し広める手がないかなと思う。
- 時代の変化にこの取り組みはちょっとテンポが遅いと思う。湿原を守ろうという

ことと環境問題というのをもっと密接に絡めて、日常生活の中での環境問題をどう括っていくのか。

- 我々は、この岩保木の水門さえ開けば、これは蛇行の魅力は100%表現できるのだ、ということを行っている。このことについて、この湿原再生、自然再生の運動は余りにも、何か無視しすぎているのではないかな。水門から下流の再生に、この再生委員会も含めて、取り組んでいけばおそらく、もっと環境問題を身近なものとして取り組むことが出来るのではないかな。
- 本プロジェクトも3年目になり、これまでの活動のあり方を振り返ることが必要であると思う。どのような形で新たな視点を持ってくるかということは重要。
- 2007の報告書をこのような形で作成するという点について、ご異存がなければこれで進めていきたい。

② ワンダグリンド・プロジェクト2008の応募状況について事務局から報告がありました。それによりますと、5月19日現在で36の団体と個人、57の取り組みについて応募があり、その公開について質疑応答が交わされました。

このようなことが話し合われました

●委員 ●事務局

- 釧路市民活動センター「わっと」のほうにきている人たちで、ここに出ていない団体が結構あると思う。「観光ガイドの会」とか、「蔵の会」というところをもっと出

てくれば良いかなと思う。

- 応募者数は、徐々にこれから増えていくものと思われるが、もし「どうしようか、参加しようかな」とか言うことをお考えのと

ころをご存知でしたら、皆さんから参加をお誘いしていただきたい。現時点での参加、応募状況を公開することとしたい。

③ 行動計画ワーキンググループの2008年度の新たな取り組み案について事務局より説明があり、その内容や進め方をめぐって意見交換が行われました。

このようなことが話し合われました

●委員長 ●委員 ●事務局

- 釧路湿原の自然再生事業の到達目標は、流域全体の再生というのをうたっている。その地域で生活している人々それぞれが釧路湿原の自然再生のために出来る事を行っていくことを通して、地域が主体となって自然再生を展開していくこと、というのが流域全体の自然再生へ繋がっていく一つのツールであると考えている。
- このような目標の達成のために、この行動計画ワーキンググループでは、「出来る者が出来ることから」というモットーを掲げている。情報をネットワークでつないで皆で共有する。それだけでもすごく大きな力になるのと考えている。
- そのため「出来る者が出来ることから」という、「出来る者」の数や層をもっと増やして、流域全体の人々というのがネットワーク化されていく取り組みが大切と考え、「フィールドワークショップの実施」がワンダグリンドに応募する魅力の一つとして、開催できたらいいと思う。具体的には皆で湿原に出かけていき、そこで湿原で起こっていることや魅力を現場で共有しようという内容になっている。
- 2番目に、「ワンダグリンド・プロジェクト推進サポーターの募集」を行い、自ら何か企画を立てなくてもそのチラシの配布にちょっと協力してもらおう。お店とかにチラシを置いてもらう。そういう方達を募集するという案である。
- 3番目は、「情報発信の拡充」。例えばそれぞれの小委員会の委員長や再生事業を担当されている担当者の方にちょっとコラムを書いてもらい、より情報を多様化させていきたい。既に釧路湿原の「ゆうゆう釧路湿原塾」というFM釧路の番組で、大西さんがこのワンダグリンド・プロジェクトや自然再生について情報発信をして下さることが決まっているので、より沢山の方に聴いていただきたい。
- 事務局からの説明の中でもあった様に、流域全体の釧路湿原の自然再生ということ、理想的な形で考えた場合に、湿原の周辺で暮らを立てている人たちにも共通認識を作る努力は欠かせないと思う。
- 湿原再生と同時に私たちが切実に考えなければいけないのは、釧路の再生。釧路の再生の方向性として、自然再生と釧路の街の活力の再生を如何にドッキングするかというのが、これが

ら釧路の街に求められていることだろう。いまや湿原を守るというよりは、環境をどう作っていくのかということが、大きなテーマになってきているだろう。

- 私の印象では、環境と共に生きているという立脚点がどうも欠けているような気がする。
- 国立公園、自然豊かな釧路湿原という言い方をしているが、町の真ん中の川が死んでいる。シャケが帰ってこない町になっている。そういう川を持ちながら自然再生とか、自然が素晴らしいとか言うのは、私にしてみればとても恥ずかしいし、それでいいのかということを問いかけたい。
- まず第一に釧路川を、流れのある、甦った本当の川にしていく。そのために、多くの人たちがそれを放流する。流域全体を巻き込んだという形になれば、正に釧路は環境を上手に生かしている街づくりになっていくのだろうと感じる。
- 非常に典型的な形で、保護派の人と、それからそこで生きていく人たちの間の不毛な対立のようなものが続いていた時期もあった。そこに生活している人たちも含んだ形で流域全体の保全のあり方の議論が始まるきっかけを作りだせるところに、やっと来たというような気がする。
- そのためまず、新しい取り組みで言うと、フィールドワークショップというような活動を少し加えて、赤沼ツアーのような研修会をやってみたらどうか、というのがワークショップの実施の案である。
- 是非川に対して関係のある諸機関、並びに我々一般市民も含めて、街の中の自然は再生しなくてもいいのか、岩保木水門並びに釧路川は流れなくてもいいのか、というようなことについて議論なり展望を開けるような話し合いの場を設定していただきたい。
- 今再生している釧路川の茅沼の蛇行の部分である、この自然の所の自然を再生する、それなりの意義が無いこともないが、それよりも釧路川の門さえ開ければ、あつという間に再生するわけで、そうすることにより蛇行の魅力、蛇行の意義も分かると思う。
- 岩保木で清掃活動を何回かやっている。ゴミがあちこち散らかっている実態を見ると、このよ

うな取り組みを個人でやるのでは無く、皆さんと一緒に協力しながら行っていくということが必要だと思う。

- 人はどこにゴミを捨てるかという、人目につかない所にゴミを捨てるのです。ということは、川の周辺は人目につかない所になっている。すなわち川のそばには人は寄り付かないような環境であるということ。そのためにも釧路川にたくさんの人が寄れるような環境づくりをしていかなければならないと考える。
- 私たちは毎年5月5日に放流式をやっているが、参加した人たちは釧路川を絶対汚さない。なぜなら自分の放したシャケが帰ってくる川は、「自分の川」であるから。川をきれいにしようという横断幕をかけるより、一匹のシャケを自分の手で放す事のほうが、よっぽど川をきれいにする心が染み込むと思う。川と共に生きるということはそういうことだと思う。
- 私たちの道東自然系ネットワークではメーリングリストというのをやっている。再生協議会や小委員会でも出来ないかなと思う。
- メールを使った情報発信については、今月2回ワーキンググループの事務局からメールを使って皆様にメールニュース・ワンダグリンドニュースというのを配信している。今後は、ワンダグリンドに参加して下さっている方々に例えばコラムを書いていただくとか、更に内容の幅を広げていきたい。
- 私どもの団体では、子どもたちは小学校3年生から高校3年生までいるが、子ども達自身が今すごく忙しい。月2回の活動を行っているが、それも難しい状態。
- 父母やサポーターの協力が重要であり、今度は家族単位でとか、地域でとかに広げていければいいなと考える。
- 今年度から、フィールドワークショップの実施、推進サポーターを募集するという点、それから情報発信の拡充・方法・範囲をよりたくさんの人たちが参加していただけるように工夫する。1つ1つバラバラにしないでこの3つを一括して、今年から新たな取り組みとしてやってみよう。このことについてご了解いただきたい。

環境ワーキンググループの経過報告及び今後の予定について

環境教育ワーキンググループの経過報告と今後の予定について、事務局より報告が行われ、引き続き委員の間で意見交換が行われました。

このようなことが話し合われました

●委員 ●事務局

- 環境教育の事例集を作成するため、協力していただける学校に直接お話を伺うという作業を行っている。
- 今後の予定として、次の環境教育ワーキンググループは、7月に開催し、ヒアリングの結果報告をするともに、事例集作成方針につ

て検討したい。次に、11月に開催し、この事例集の案を具体的に詰めていきたい。更に2月にも開催し、この時には事例集の完成、今後の活用方針について検討していきたい。

- 9月に予定されている知名度アンケートの実施とあるが、前回、前回について、基本的

にサンプル数が少なすぎると思う。協議会の会員にサポートを頼んで、それでアンケートを取りながら宣伝もする、という形で横のコミュニケーションもとれる。人も活用する意味で、アンケート調査をしてくれるサポーターの募集をしたらいいと思う。